

# 徳島ペンクラブ通信

発行

徳島ペンクラブ

徳島市東沖洲2丁目1-13

徳島県教育印刷(株)内

TEL 088-664-6776

170号

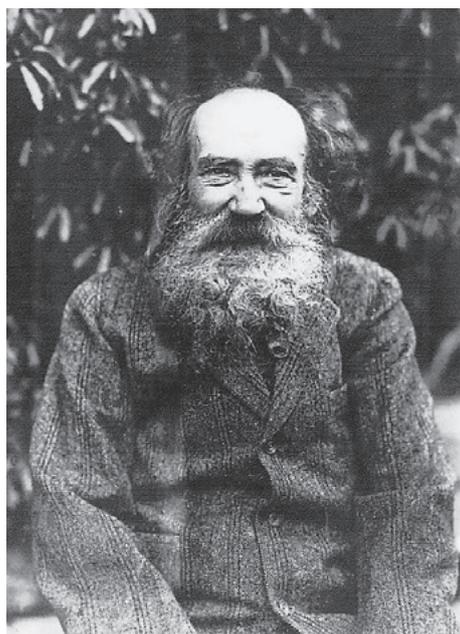
平成27. 3. 30

## 文豪モラエスを作品から顕彰

### 今秋の県民文化祭参加イベント

#### 次号「選集」でも特集

徳島ペンクラブの今年の県民文化祭参加イベントは、1月の理事役員会で、ポルトガルの文豪で、晩年は徳島で生涯を終えたモラエスを作品の面から取り上げ、顕彰することが決まった。内容は、主にファド（ポルトガルの民族歌謡）のコンサートと作品の朗読で構成する。会場は、徳島駅前のシビックセンターホール、もしくは県立文学書道館。日時は、10月31日（土）か、11月21日（土）を予定。



“孤愁の異邦人”モラエスと関連著書④



県民文化祭参加イベントに「モラエス」が決まったことを受けて、「徳島ペンクラブ選集」パート33の特集も、モラエスをクローズアップする。特集の作品募集要項などは、次の通信171号（6月発行予定）の中で、一般作品の募集要項とあわせて発表する。

## 5月17日（日）阿波観光ホテル

### 新年度総会 坂東正章会員が講演

徳島ペンクラブは2月21日の理事役員会で、新年度の総会を5月17日（日）午前10時から、徳島駅前の阿波観光ホテルで開催することを決めた。

今回は役員の改選年に当たっており、副会長、理事等に多少の出入りがある模様。総会では記念講演を計画、講師に会員で元心臓血管外科専門医の坂東正章氏（坂東ハートクリニック院長）に、「三浦哲郎、山口洋子にみる高血圧との付き合い方」の演題でお話していただく。総会後の懇親会では、カラオケなどを楽しみむことにしている。懇親会の参加費は4000円。出欠は、同封のがきで。

ペンクラブ

# 7月に研修会を兼ねて開催

## ペンクラブ賞の発表と表彰

選集32号の掲載作品から選ぶ今年のペンクラブ賞の発表と表彰は、7月に予定の研修会（日時、場所未定）で行われることになった。会員の投票結果を受けて2月21日に開かれた理事役員会で、ペンクラブ賞受賞者を選出したが、たまたまその人が既に「無鑑査」の資格を持っている方だったため、理事の中から、この制度自体の見直し提案があり、ほかにも①全体のレベルアップの刺激策として、同じ人の受賞は何回でもよい②毎年連続受賞は容易でない③過去の受賞歴が正確に残っていない④などの理由で、今総会で無鑑査制度の廃止が提案されることになった。

その結果、総会を経て、受賞者の発表と表彰をすることとした。そんな事情で昨年3月に初めて実施して好評だったペンクラブ賞の表彰を兼ねた研修会を、今回は総会後の7月に開く。また、研修会の講師には、文学書道館の館長で、元徳島新聞論説委員長の富永正志氏を招く予定。

# 会員もどしどし応募を！

## 第16回とくしま随筆大賞

徳島ペンクラブ主催の第16回「とくしま随筆大賞」の募集要項がこのほど次の通り決まった。係では、ペンクラブ会員も遠慮せずどしどし応募してほしいと話している。

●応募規定 テーマは特に設けない。エッセー、随想、主張など何でも自由。1人1編、未発表に限る。400字詰め原稿用紙3枚以上5枚以内。表紙は別。縦書き。ワープロの場合は1行40字で字数は同じ。表紙に氏名、年齢、住所、電話番号・ファックス番

## 雑感

若者が思わず読みふける（買ってかえる）となったらしいなあ。

なんとカラフルな！ いま

や、本が売れるひとつの要因に表紙の存在がある。西加奈子、中村祐介の表紙イラストで本は売れる！ 漫画チックな絵なんて、と眉をしかめる

あなた。時代おくれよ。そうです、本は活字で

あふれているものと思いついて、いるそのあなた。時代おくれよ。吐き気がしそうなほどに活字が続く文芸書は別として、

「読みたい」本には写真があり、レイアウトに工夫がある。今回の特集『今、甦る野上彰』。よくわかったですよ、野上彰。続くページにはペンクラブの活動内容が生き生きと誌面に踊っていて、本屋で手にした

## 選集32号 読書感想 文的戯言

「本」づくりは、執筆者と編集者の共同作業なのです。（なーんてわかったような顔して偉そうに。すみません）それどころか、本誌担当の編集子は写真も割り付けも一人でこなし、「ひとり静かに笑っている」。わたしはとて「そういうものにはなれそうもない」。お疲れさまでした。

むろん作品の方も力作ぞろいでした。「書くこと大好き人間」たちも高齢が目立つのも事実。でも、それがどうした！ みんなやがて年取る年取らないと見えないものも多い。本屋で選集を手にしたあなた。ペンクラブを宣伝してな。

(T・H)



をねぎらうあいさつ。続いて、受賞誌、特別作品賞受賞者の紹介があり、最終審査委員の三田村博史（中部ペンクラブ会長）、伊藤氏貴（明治大学准教授）、佐々木義登（四国大学准教授）の3氏が含蓄のある言葉でそれぞれ丁寧な講評を行った。

この後表彰に移り、最優秀の盛岡第四高校代表に、賞状、盾、奨励金10万円が黒川委員長から授与された。優秀賞の札幌琴似工業高校など3校に賞状と奨励金3万円、特別作品賞の盛岡第四高校の千葉珠絵さんら4人（誌）に賞状と図書券がそれぞれ贈られた。奨励賞の市立函館高校など11校には、賞状が送付された。表彰式の後レセプションがあり、出席者が食事を共にしながら歓談した。

今回は、25都道府県から50誌の応募があった。第1次審査は、応募校の文芸部員らで選考、41誌が2次審査へ。この後、徳島ペンクラブの正副会長らが選考して20誌に絞り、これを審査委員の3氏からは、池田、脇町、城ノ内、城南の4校から応募があり、このうち3校が2次に残ったが、いずれもベスト20誌には残れなかった。

## 子規や秋山兄弟の松山へ

### ——徳島ペンクラブ春の文学旅行——

徳島ペンクラブ恒例の春の文学旅行は、今年は3月27日（金）夏目漱石や正岡子規、秋山兄弟で名高い文学の里・松山を訪ねる。実施時期が例年よりちょっと早くなり、このペンクラブ通信の発行と重なる結果となった。

参加者は定員いっぱい46人。最初に訪れるのは、松山東高校の一角にある明教館。江戸時代の松山藩藩校で、明治維新後松山中学校となり、子規や「坂の上の雲」の主人公・秋山真之が同級生として共に学んだところ。道後温泉「ふなや」で昼食のあと、午後は、2班に分かれて子規や漱石も乗ったという坊っちゃん列車（現在の列車は復元されたもの）に乗車、その後、班ごとに秋山兄弟の生家か子規記念博物館を見学する。

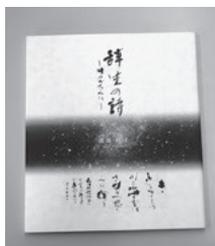
帰路、伊予郡砥部町で癒しの詩人として知られる坂村真民（1909～2006）の記念館や砥部焼きのメッカ、砥部焼伝統産業会館に立ち寄る。徳島駅前着は午後6時50分ころの予定。

### 会員短信

★鳥羽俊明さん このほど「物語の舞台を訪ねて」——私の文学散歩——（260ページ）を写真を自費出版した。

2000年ころから休暇などを利用して、国内外の文学にゆかりの地を訪ね、紀行文として俳誌「藍花」や徳島ペンクラブ選集に発表したものなど18編を一冊にまとめた。序文を書かれたペンクラブ前会長の山下博之さんは「文学散歩のお供にどうぞ！」と絶賛している。

★渡部耕司さん 1947年生まれの若さで、このほど「辞生の詩——時のかたみに」（62ページ）を写真を自費出版した。60歳代前半から詩をはじめ、詩誌「逆光」の同人になっての3年半の間に、同誌に掲載された詩14編とペンクラブ選集などに載せたエッセー3編を収録している。「余生があるなら、「辞生の詩」パート2に挑みたい」と言っている。



過日、徳島大学新蔵町キャンパスで「モラエスの5163日」と題するミニ講演会があった。そこで二つのビッグな感動をもらった。一つは、モラエスが徳島に移住してくる前、14年間の在神戸・大阪ポルトガル領事としての足跡が浮き彫りになったこと。もう一つは、その講演者が編集つ子の古い友人の女性であったこと。映像を使ってお話もわかりやすく、日本でのモラエスの果たした役割の偉大さに接する喜びがあった。この4～5年間独力で研究したそうだが、その成果の大きさにも驚きを超して、いたく心に響いた。次号選集の特集でも何らかの形で一部紹介できればと思っている。

### 編集後記

（倉）